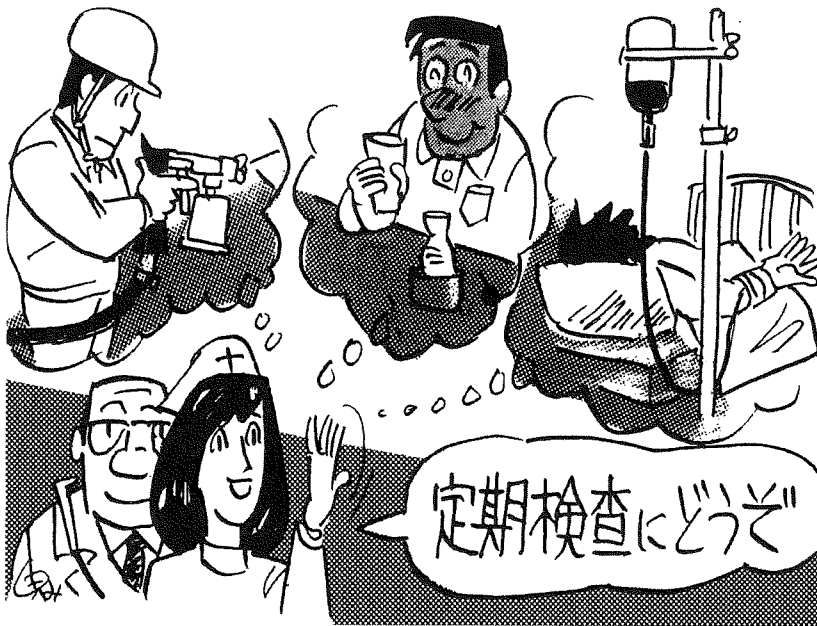


職場の定期健診の内容が見直し

—— 高齢者や女性の就業者増に対応 ——



厚生労働省は従業員に受診を義務付けている定期健康診断の内容を見直すことになりました。見直しは生活習慣病の増加に伴い、腹囲測定やLDLコレステロールが追加された07年以來となります。

年1回実施されている健康診断は、労働安全衛生法に基づくもので、検査項目は労働省令で

定められています。1972年の制度開始以降、疾病や社会情勢の変化に対応し、健診内容は段階的に見直されてきました。

ただし、直近では2016年に健診項目の妥当性が検討されましたが、具体的な見直しには至りませんでした。今回の見直しは、就業者に占める60歳以上の割合が増加していることや、働く女性の増加、就業期間の長期化が背景にあるようです。健診効果を高めると同時に、女性特有の疾患の早期発見につなげる狙いもあるとしています。

政府が策定した「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」では、女性の活躍推進に向けて事業主に健診の充実を盛り込んでいます。

労働者の健康診断における有所見率は上昇傾向にあり、22年では58・8%に達しています。

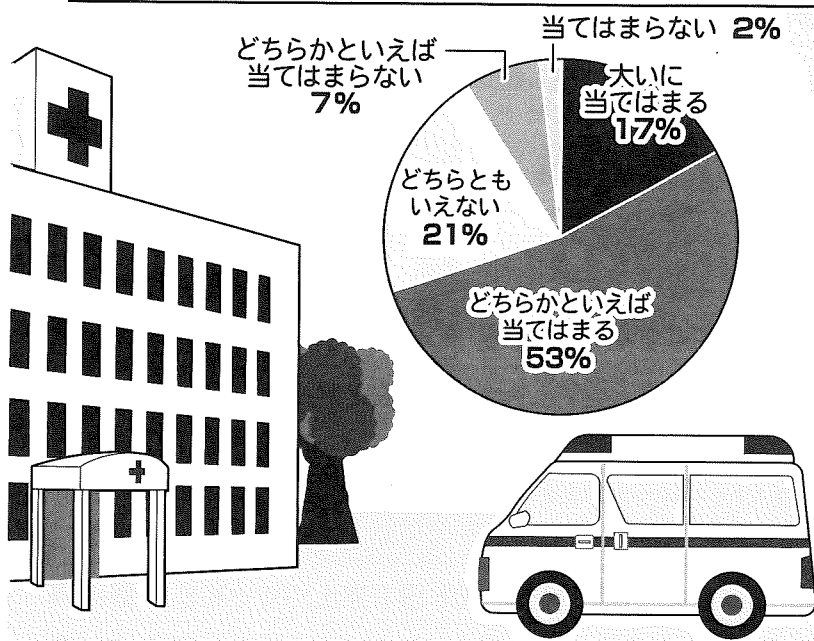
この5年あまりは減少傾向にあった脳・心臓疾患の労災認定件数も、22年は上昇に転じている状況です。定期健康診断（含む、有害業務等の特殊健康診断）は必ず受診しましょう。

（資料・引用「日刊工業」23・12・07）

軽症での119番は「困る」70%

— 22年 国民の20人に一人が利用 —

軽症の119番通報が年々増え、対応に困っているか



※23年8月～10月実施、総務省消防庁の47本部へのアンケートによる

総務省消防庁はこのほど、全国の都道府県から1カ所ずつ抽出して計47消防本部を対象に行ったアンケート調査で、「軽症の119番通報が増えて困っている」「搬送先が決まりにくくなっている」との回答がそれぞれ70%に上ったと発表しました。

アンケートは昨年8～10月に実施したもので軽い擦り傷といった軽症での119番に「年々増えて対応に困っているか」との質問に、17%が「大いに当てはまる」、53%が「どちらかといえば当てはまる」と答えていました。

搬送先の病院が決まりにくくなっていることには「大いに当てはまる」38%、「どちらかといえば当てはまる」34%などでした。

アンケートでは「軽易なことで通報されやすくなっている」「独居や身寄りがない人の受け入れ先を見つけるのが難しい」などの意見も寄せられました。

消防庁によると、2022年の救急車の出動件数は約723万件、搬送者数は約622万人（日本国民の約20人に一人）で、いずれも過去最多でした。

このように昨今、救急隊員らの忙しさに拍車がかかっており、消防庁は搬送先選定でのデジタル技術活用事例を紹介するなど、負担軽減を支援していく考えです。（資料・引用「日経」23・12・05）
私たちが救急車を呼ぶのを迷ったり、ためらったときは電話「#7119」で相談できます。

健康づくりには「1日60分以上歩行」

厚労省が身体活動ガイド発表

■ 身体活動・運動の強さ(メッツ)の例

運動	メッツ	生活	メッツ
 ヨガ・ストレッチ	2.5	 1 安静に座っている状態 デスクワーク	1.0 1.5
	ウォーキング		3.5
 ジョギング	7.0	2 料理、洗濯 3 掃除機かけ 風呂掃除	3.3 3.5
	サイクリング		8.0
		4 ゆっくり階段を上る	4.0

※厚労省やスポーツ庁の資料より

■ 推奨する活動内容

- 高齢者 ▶ 3メッツ以上を1日40分以上
- 成人 ▶ 3メッツ以上を1日60分以上

厚生労働省は昨年11月末、国民の日常生活での身体活動の推奨事項などをまとめた指針「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」を発表しました。

このガイドでは健康増進に向け、歩行と同程度以上の活動を成人は1日60分以上、高齢者は

40分以上することなどを勧めています。そして、他に座っている時間が長くなり過ぎないように注意を呼びかけています。

ガイドによると、身体活動の量が多い人は循環器病やがん、認知症などの発症リスクが低下するとのデータもあり、個人差もふまえて強度や量を調整して、少しでも多く体を動かすことが大切だ、としています。

推奨事項では、身体活動の強さを表す「メッツ」という単位を使って具体例を挙げています。安静に座っている状態を1・0メッツとし、歩行は3・0など(メッツの例は上記)。

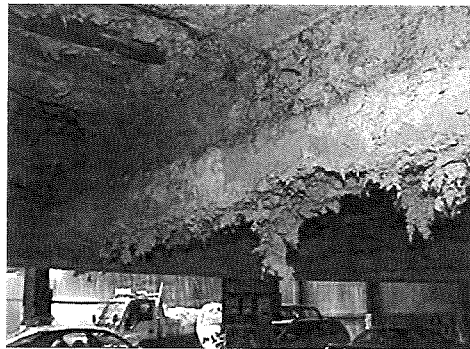
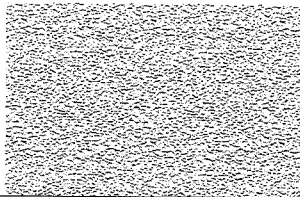
スポーツなどの運動を定期的に取り入れることも重要で、週2、3回の筋力トレーニングは死亡リスクを軽減するとしています。

ガイドでは座りっ放しの時間が長いと血流や代謝が悪くなり、病気の発症に影響する点にも触れています。なお、ケガ防止のため、激し過ぎる運動には気を付けるよう求めています。

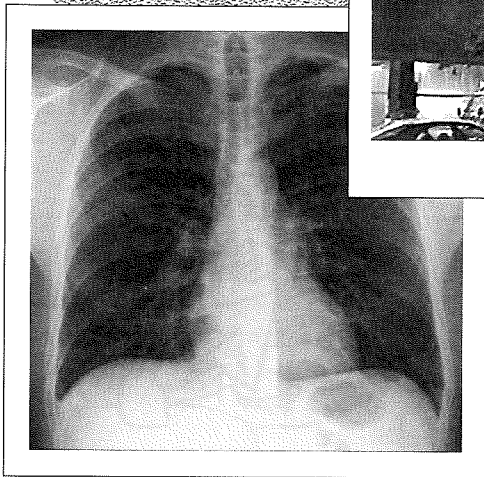
(資料・引用「日経」23・11・28)

「石綿」で労災認定者累計2万643人

事業所数合計 1万8134カ所



吹付け石綿



建設作業などによる石綿（アスベスト）の健康被害で肺がんや中皮腫などにかかり、2022年度に労災認定された人は1140人だったと、昨年12月厚生労働省が発表しました。

肺がん等の石綿障害は、数十年の潜伏期間後に発症することが多いため、同省は今後も新た

に毎年1千人以上が労災認定されると見ています。石綿の健康被害で労災認定された人は、昨年度までの累計で2万643人となりました。

一方、22年度に労災認定された人が働いていた事業場は1133カ所。うち860カ所では初めて認定者が出ました。05年の国の公表以降で延べ1万8134カ所となりました。

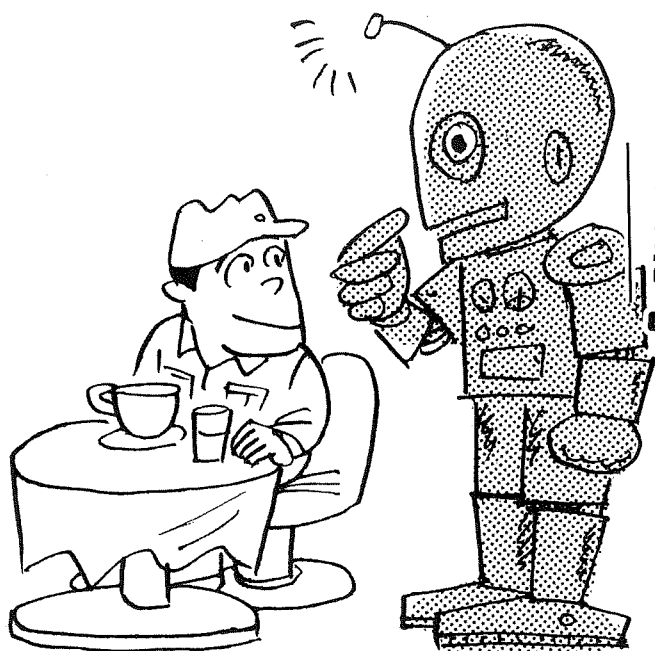
石綿は天然の鉱物繊維で耐火や保温の目的で建材として重宝され、使用量は1970年代にピークを迎えました。しかし、吸い込むと肺がんや中皮腫になる人が相次ぎ、国は2006年に製造や使用を全面禁止しました（欧米などではその数年以上に前に禁止している）。

21年に最高裁は判決で、国と建材メーカーの責任を認定。国は裁判を起こしていない被害者にも症状に応じて一人あたり550万〜1300万円の給付金を支給する基金を創設しました。メーカー側は賠償の判決が確定した人への補償にとどめており、被害者とメーカー各社との間で集団訴訟が続いています。

（資料・詳細「朝日」23・12・13ほか）

AIでリスクを検知して安全対策

— 労災事故を AI 等の先端技術で防止へ —



2022年に労災による死傷者（新規労災保険受給者）は59万4千人、うち休業4日以上之死傷者は13万2355人で過去20年で最多の発生状態です。この原因としては熟練労働者の不足や安全対策の不備などが挙げられています。このような事から、事業所等では技能継承の手段としてAI（人工知能）等を活用した安全対

策や処置の方法が進められています。

JFEスチールの東日本製鉄所京浜地区（川崎市）は、階段やフォークリフトなどへ人工知能（AI）搭載カメラの設置・搭載を始めました。

例えば階段では、AIカメラが昇降時に手すりを持っていない人を検知し、音声で注意喚起するシステムなどを実証中です。

三井化学は、熟練者のリスク検知ノウハウをAIに学ばせて若手が活用できるAIシステムを構築しています。「ヒヤリ・ハット」に関する過去20年間のデータベースをAIに読み込ませたシステムです。素材やプロセスのキーワードを打ち込むと、事故・災害発生の可能性や被害予測の大きさなどのリスクを提示するということです。24年中に全国主要5工場を進めるとしています。（引用・詳細「日経」23・11・23）

ほかの事業所などでも、人手不足や高齢化などで事故や災害が多発しており、AI等の先端技術を取り入れた安全対策の研究・実証も行われています。ここで大切なことは、皆が立場・持ち場で、安全管理・活動の「基本」を心得て、工夫し実行していくことでしょう。

海外の事故・災害から

…2023年11月…

- ▼ネパール カルナリ M5.6の地震。山岳地帯のジャージャルコート被害が集中し、レンガ造りの住宅が崩壊。死者不明157人、負傷560人以上。
- ▼大西洋ビスケー湾 カナリア諸島を巡る大型クルーズ船が荒天の強風・高波による大揺れで約100人が負傷。
- ▼中国 黒竜江省 2階建てのフィットネスクラブのバスケットボールエリアの屋根が突然崩落。積雪が原因と見られる。死者3人、負傷1人。
- ▼アメリカ テキサス州 石油化学製品工場で大規模爆発で火災。付近の道路を閉鎖、住民に避難命令。負傷1人。
- ▼中国 浙江省 改築工事中の4階建て集合住宅が崩壊し、作業員が下敷き。死者4人。
- ▼アイスランド レイキャネス半島 火山性地震が頻発。道路に大きな亀裂が入り、水蒸気噴出。非常事態宣言が出されグリーンダビークの住民4000人が避難。
- ▼インド ウッタラカンド 建設中の高速道路のトンネルが崩落し、41人が閉じ込められる。発生17日後に全員救出。
- ▼中国 河南省 開業2日目の激安スーパーの床が崩落し、客2人が穴に落ちてケガ。
- ▼インド ジャム・カシミール ヒマラヤ山脈の高速道でバスがガードレールに衝突し、崖下約200mの一般道に転落。定員オーバードスピード出し過ぎ。死者不明37人、負傷18人。
- ▼中国 山西省 炭鉱会社の4階建てビルで火災。炭鉱労働者のための浴室から出火。死者不明26人、負傷38人。
- ▼フィリピン ミンダナオ島沖 M6.8の地震。ジェネラルサントス市内の商業施設で天井が一部崩落、高層ビルの屋上からクレーンが落下など。死者不明11人。
- ▼ペルー アンカシユ アンデス山中クスカ地区の山岳の悪路で、バスが道路から急斜面を300m転落。死者不明20人。
- ▼アメリカ カリフォルニア州 ディズニールンドで、強風のため照明柱が倒壊。1人が重傷、他2人ケガ。
- ▼中国 黒竜江省 炭鉱で衝撃土圧が原因と思われる崩落事故。死者11人。
- ▼中国 四川省 倉庫の建設現場で足場を移動中、高圧電線に接触し、作業員が感電。死者4人。

〔資料・引用〕災害情報「早稲田大学理工学術院総合研究所編集発行、ほか